



REAYU CONCEPT

フラッグシップモデル REAYU は「REAL」な「AYU」からの造語である。
カツイチは鮎釣りをクリエイイトする会社として、大きな意味で「再び 鮎を」というメッセージも入れている。

約 20 年前、バブル経済とともに、鮎の友釣りは空前のブームとなった。
そしてその資金力は技術力、競技力を向上させ、
20 年後、大きな壁となり、本来の鮎の友釣りとは違う壁が出来上がってしまった。

そう釣人なら誰もが言う「敷居の高い釣り」だ。
誤解はされるかも知れないが、競技そのものを否定している訳では無い

話は数年前にさかのぼる。鮎釣りをしていてある漁協関係者からこんな話を聞く。

「のう、何故、若い世代は、鮎がおる清流ではなく、隣のため池でルアーフィッシングをしているんだ。休みにもなれば同じ池にとっかえ、ひっかえ釣人が訪れる。いつから日本の魚に興味が無くなってしもたんだろうか？ あんたみたいに若いもんが鮎釣りしよらん」

一般客への問いかけだったが、答えに詰まった。
そんな会話が、REAYU が始動のきっかけとなった。
みんなが気付いていない「ボタンの掛け違い」のようなものが今の鮎釣りにはある。
そうしてフラッグシップモデルの「REAYU125S」の開発が始まった。

ただ本当に鮎友釣りの楽しさは、次の世代に伝わっていたのか？
メーカーもテスターも全員、伝えたと思っているだけで、伝わっていないのではないかな？

友釣りは世界でも類を見ない最高に面白い釣りだ。
でも、そこにたどり着く前にやるべき事もあるはず。

川は魚道が設置されたりして、よみがえっている。

「鮎」は日本を代表する魚、加えて「日本古来のゲームフィッシュ」である。
REAYU の本質は「鮎のゲームフィッシング化」である。
そしてその本質のコアは、もちろん川に釣人が帰ってくる事
そんな観点から 再び鮎に取り組むスタイルがリアユである。